

「あまみエフエム ディ！ウェイヴ」放送原稿〈6月13日（金）放送分〉

テーマ「奄美の民話や昔話」

あまみエフエム ディ！ウェイヴをお聞きの皆様、おはようございます。鹿児島県立奄美図書館です。今日は、毎月第2金曜日にお届けする、「奄美の民話や昔話」シリーズの第3回、瀬戸内町の昔話「^{ふるや もれ}古屋の漏」です。

昔、おじいさんとおばあさんが夕暮れ時^{ゆうぐ とき}に家でおしゃべりをしていました。おばあさんが、「おじいさん、この世の中で一番怖いものは何ですか。」と尋ねました。するとおじいさんは、「私は、『^{ふるや も}古屋漏る』が一番怖い。」と答えました。今度はおじいさんが、「おばあさん、この世の中で一番怖いものは何ですか。」と尋ねると、おばあさんは、「私がこの世の中で一番怖いものは、^{とら}虎ですね。」と答えました。

実はそのとき、家の床下^{ゆかした}には虎がいて、おじいさんとおばあさんを食べようとしていました。そして、虎は家の周りをぐるぐると回って、中の様子をうかがっていたのです。

虎は二人の話を聞き、この世の中で自分が一番怖いものだと思っていたのに、『フルヤモル』という、自分よりもっと怖いものがあるんだなあと、感心していました。

そして、『フルヤモル』とは、一体どんなものかなあと考えていました。

やがて日が暮れて暗くなったころ、その家に馬泥棒^{どろぼう}がやって来ました。馬泥棒は虎を見て、「おや、これは上^{じょうとう}等な馬がいるぞ。」と言って、虎の背中の上に跳び乗りました。

すると、虎はびっくりして、今さっきおじいさんとおばあさんが話していた、『フルヤモル』にとりつかれてしまったと思い込み、「『フルヤモル』にとりつかれてしまった、これは大変だ。どこかでこいつを振り落とさないといけない。」と走り出しました。

虎がしばらく走ると、井戸がありました。虎は背中に乗っている『フルヤモル』をその井戸に振り落とそうとしましたが、『フルヤモル』の正体は、馬乗りが上手な馬泥棒だったので、なかなか井戸の中に落ちませんでした。

やっとのことで虎は『フルヤモル』を井戸の中に振り落とし、命からがら、逃げてくる途中で、猿と出会いました。

猿は、「虎さん、虎さん。今日の虎さんの様子は変だけど、何か変わったことでもあったの。」と尋ねました。虎は、「今、私は、この世の中で一番怖い『フルヤモル』にとりつかれてしまったが、やっとのことで、その『フルヤモル』を井戸の中に、振り落としてきたところなのだ。」と答えました。

すると猿は、「『フルヤモル』なんて聞いたこともないけど、この世の中で一番怖いものは、虎さんではないですか。」と言いました。

さらに猿は、「それなら、僕がその井戸に行って、『フルヤモル』を見てきましょう。」と言いました。虎は、「いや、『フルヤモル』は怖いものだから、そんなことをしないほうがいい。」と言いました。

ところが、猿はそんな虎の言葉には振り向きもせず、自分の長いしっぽを井戸の中に入れて、ぐるぐるとかき回しました。

すると、井戸の底にいた馬泥棒は、その猿のしっぽを、自分を助ける綱が降りてきたと思い、必死につかみました。

『フルヤモル』につかまりたくない猿と、何とか井戸から出たい馬泥棒は、さかんにしっぽを引き合ったので、猿の顔は真っ赤になり、とうとう猿のしっぽは切れてしまいました。

井戸から戻ってきた猿が、「虎さん、助けてください。」と言うと、虎は逃げ腰になりながら、「ほら、ねえ、そんなところに行くなと言っただろう。」と言いました。

そして虎は、「そんなところに行くから、君のしっぽは切れてしまったじゃないか。」と言いました。

それからというもの、猿のしっぽは短く、顔は赤くなったそうです。

さて、今回のお話はいかがでしたか。『古屋漏る』とは、古くなった家の雨漏りを指す言葉だと思われませんが、虎にとっては未知で恐ろしい『フルヤモル』になってしまうところがいいですね。

また、馬泥棒が馬と間違えて虎の背中に跳び乗り、虎が『フルヤモル』にとりつかれたと思い込むのも、楽しい場面です。

最終的には、猿の短いしっぽと赤い顔の由来に行き着くのですが、それまでの展開が軽妙なお話でした。

歴史上、野生の虎が生息していなかった日本に、虎が持ち込まれたのは、中国からのようです。中国やインドには虎が生息していたようですから、今回のようなお話もありえるかも知れません。いっぽう、野生の猿は日本各地に生息していて、昔から人々に馴染みのある動物でした。

昔話の中には、いろいろな動物が登場することがありますが、その動物の種類や分布、人々との関わりなどに注目してみるのも面白いですね。

このように奄美図書館には、郷土に伝わる昔話を紹介した本がたくさんあります。ぜひ図書館にいらして、いろいろな本を手にとってほしいと思います。職員一同、皆様のご来館を心よりお待ちしております。以上、鹿児島県立奄美図書館でした。